

貸すたむ車庫

擁壁に埋め込まれた車庫（ヨウヘキ車庫）の新たな使われ方を提案する。車に乗らなくなった高齢者が持て余したヨウヘキ車庫は、坂のまちである横浜市において今後より大きなストックとなる。また、若者の自動車保有台数が減少する現代社会においても、ひな壇住宅地でパッケージ化されたヨウヘキ車庫は工事費がかさみ、新規住民のネックとなっている。新規住民のニーズに対応するためにも車庫とその上物の住宅との新たな関係性の創出が望まれるだろう。一方で、車の停まっていないヨウヘキ車庫は、道路とフラットに繋がりとどこか公共的に感じる空間である。

ヨウヘキ車庫を車の使用状況に応じてカスタムしていき、私有と公有の間の公共的な空間「貸すたむ車庫」としてまちに開いていく仕組みをつくる。車に乗らなくなった車庫のオーナーと外部からのテナントをマッチングし、そこへユーザーが訪れる。ヨウヘキ車庫を介して新しい関係性を生まれる。



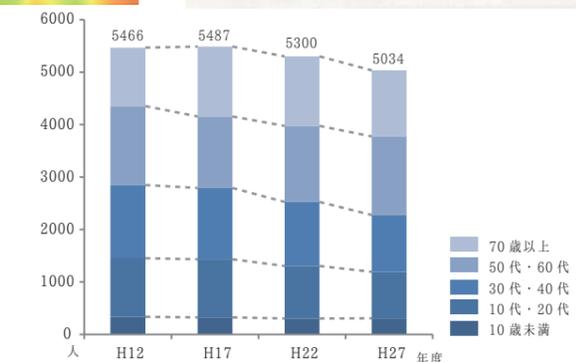
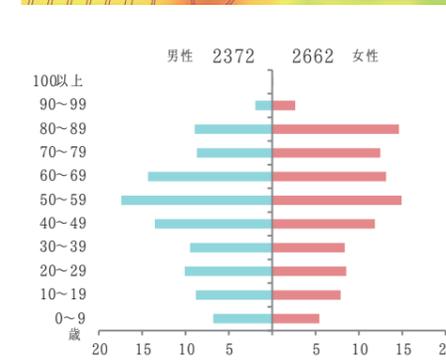
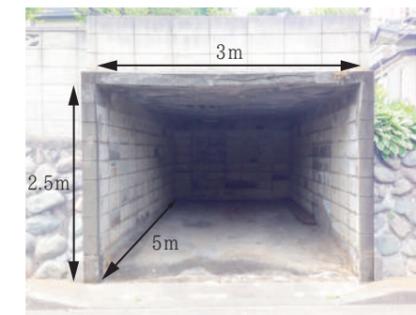
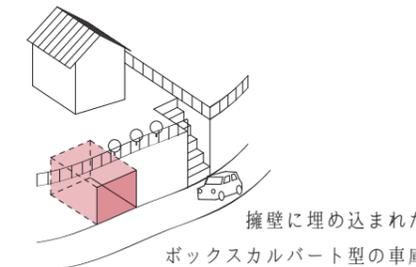
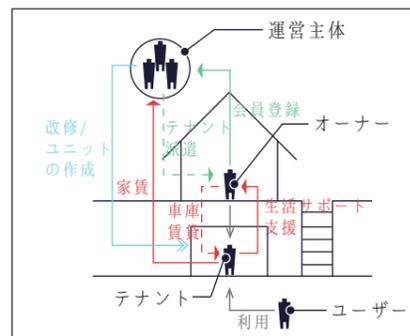
現在のヨウヘキ車庫



駐車スペースを確保し、天井部にストックをもつユニット



天井部からは机やイスが取り出され、小さな公共的な空間となる



神奈川県横浜市旭区万騎が原。昭和30年代に神奈川県と相鉄の協働で開発されている。土地造成が行われておらず、起伏の激しい斜面地と擁壁によって形成されるひな壇状の住宅地が特徴的な大都市近郊の郊外住宅地である。道路上の景観はこの擁壁と擁壁に埋め込まれた車庫（ヨウヘキ車庫）により形成されている。開発より約50年を経て、高齢化と人口減少とともに、車を使用する層が減少し、ヨウヘキ車庫が空となる空き擁壁問題が発生しており、今後も増加が予想される。

227個の
ヨウヘキ車庫

